

## 雲仙岳の火山活動解説資料（令和元年9月）

福岡管区气象台  
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はありませんが、2010年頃から普賢岳から平成新山直下の深さ1～2kmを震源とする火山性地震が時々発生していますので、今後の火山活動に留意してください。  
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

### 活動概況

- ・噴気など表面現象の状況（図1、図2 - ）

白色の噴気が噴気孔上40m（8月：10m）まで上がりました。

- ・地震や微動の発生状況（図2 - 、図3）

火山性地震の月回数は11回（8月：11回）と少ない状態で経過しました。震源が求まった火山性地震は10回で、普賢岳から平成新山直下の深さ約1～2kmに分布しました。

2010年頃から、普賢岳から平成新山直下の深さ1～2kmを震源とする火山性地震が時々発生しています。

火山性微動は、2006年11月以降観測されていません。

- ・地殻変動の状況（図4、図5）

GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる特段の変化は認められませんでした。



図1 雲仙岳 平成新山の状況（9月23日、野岳監視カメラによる）

< 9月の状況 >

白色の噴気が噴気孔上40m（8月：10m）まで上がりました。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ（<https://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（[https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（令和元年10月分）は令和元年11月11日に発表する予定です。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuj.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、九州地方整備局雲仙復興事務所（長崎県経由）、九州大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平29情使、第798号）。

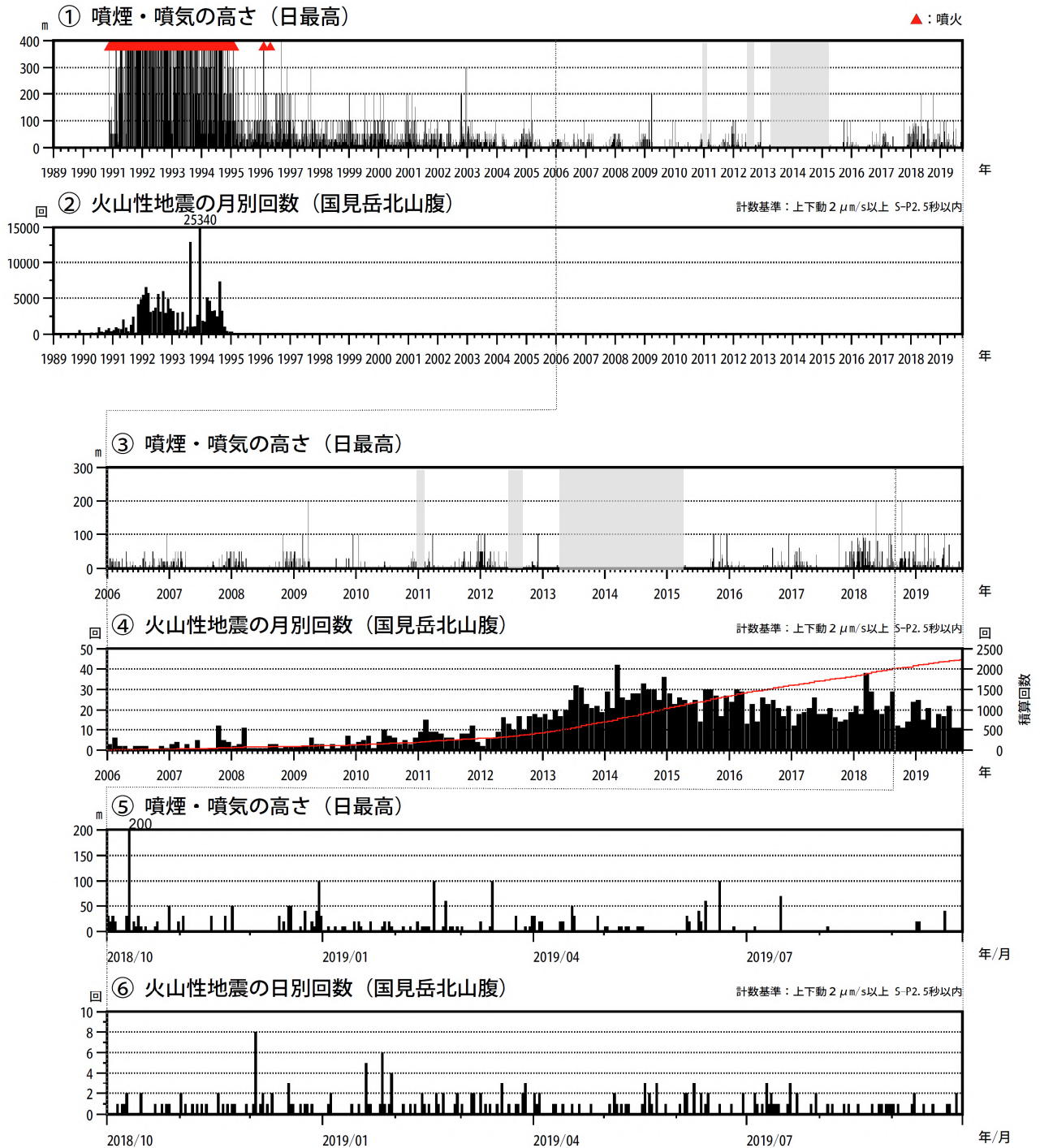


図2 雲仙岳 火山活動経過図（1989年1月～2019年9月）

< 9月の状況 >

- ・白色の噴気が噴気孔上40m（8月：10m）まで上がりました。
- ・火山性地震の月回数は11回（8月：11回）と少ない状態で経過しました。
- ・2010年頃から普賢岳から平成新山直下の深さ1～2kmを震源とする火山性地震が時々発生しています。

火山性地震の回数については、2012年8月31日までは矢岳南西山腹の計数基準（上下動5 $\mu$ m/s以上）で計数しています。

灰色部分は監視カメラの障害による欠測を示しています。

の赤線は地震回数の積算を示しています。

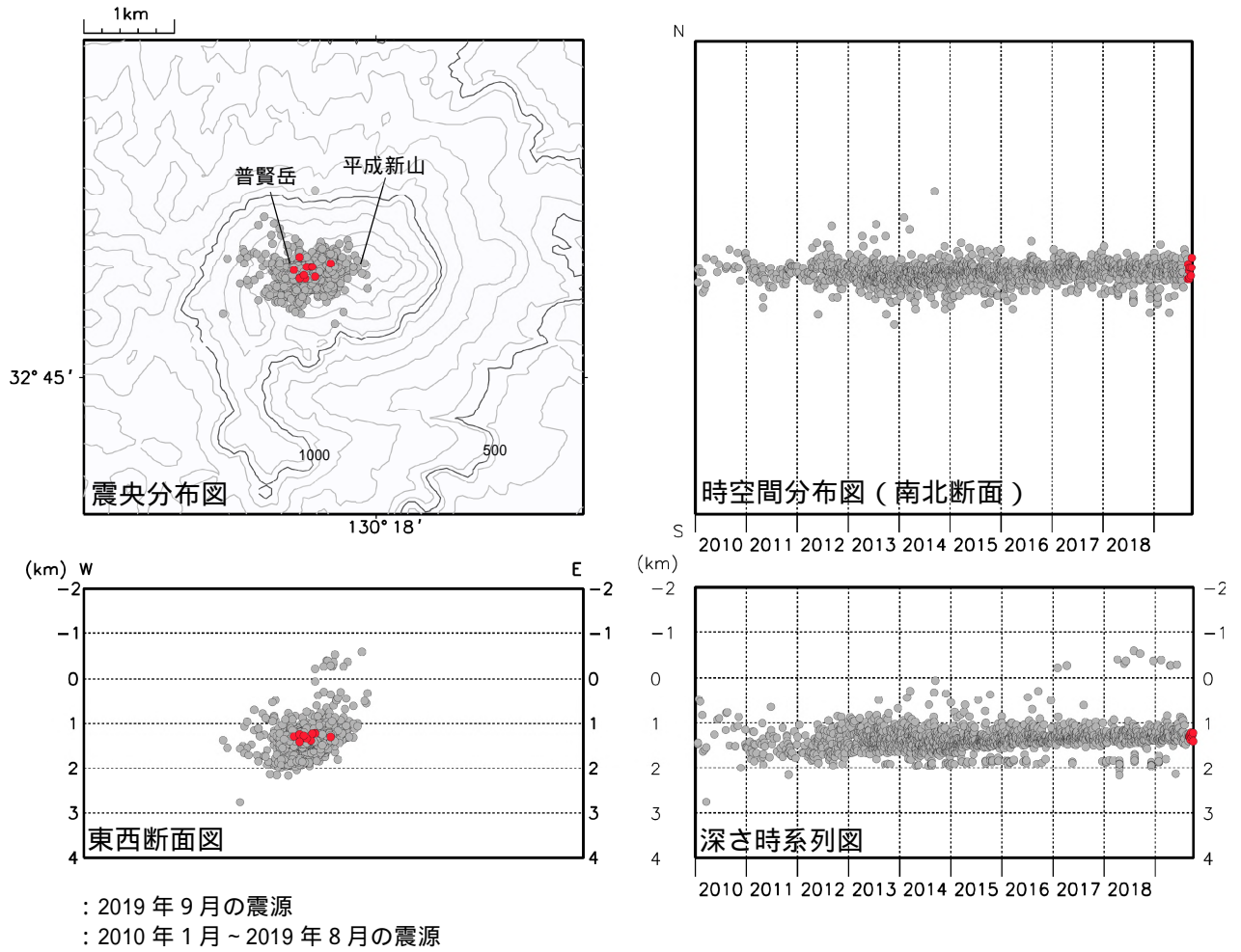


図 3-1 雲仙岳 震源分布図（普賢岳・平成新山付近の地震）（2010年1月～2019年9月）

< 9月の状況 >

震源が求まった火山性地震は10回で、普賢岳から平成新山直下の深さ約1～2 kmに分布しました。

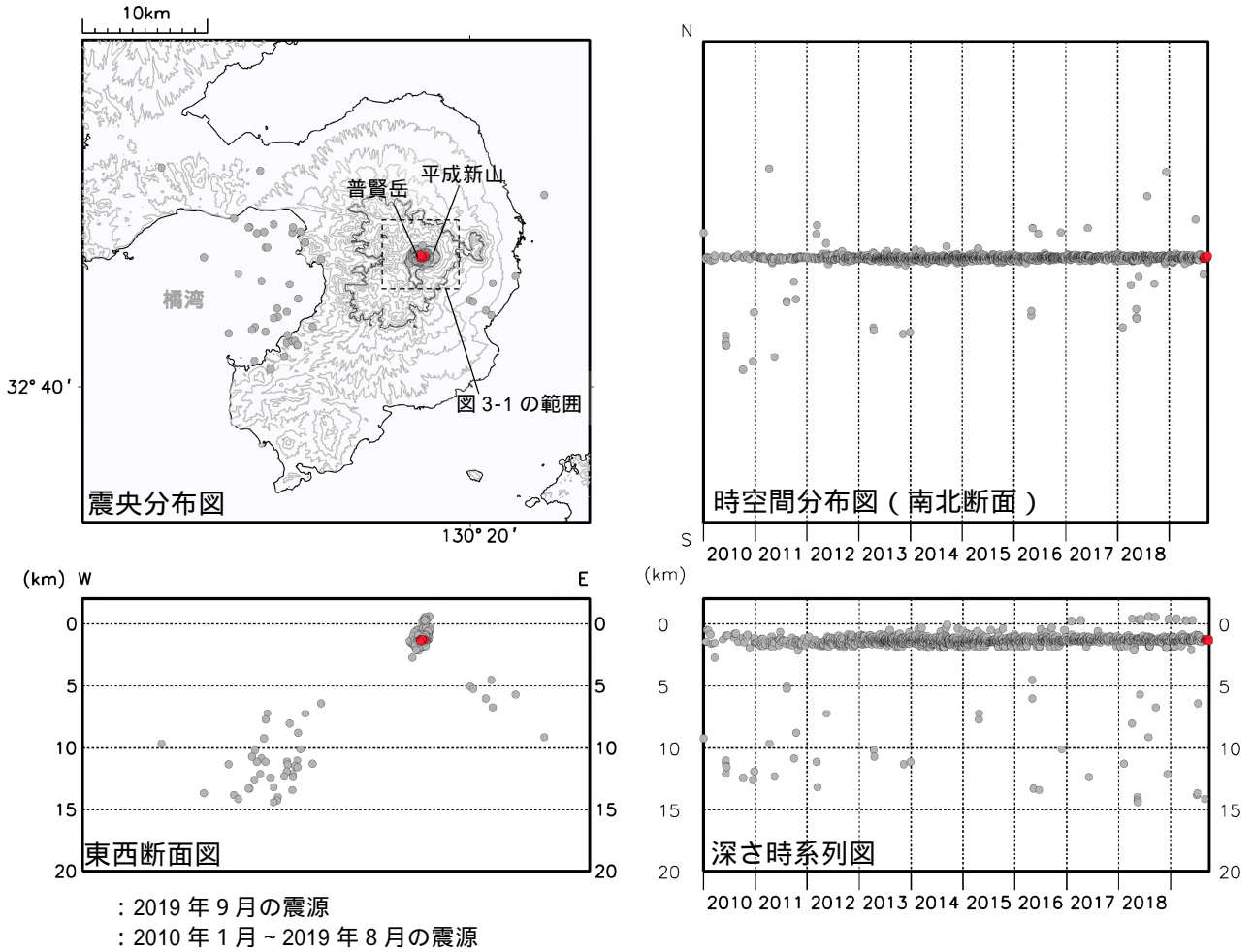


図 3-2 雲仙岳 震源分布図（広域）（2010年1月～2019年9月）

< 9月の状況 >

震源が求まった火山性地震は普賢岳・平成新山付近に分布し、橘湾付近に震源が求まった火山性地震はありませんでした。



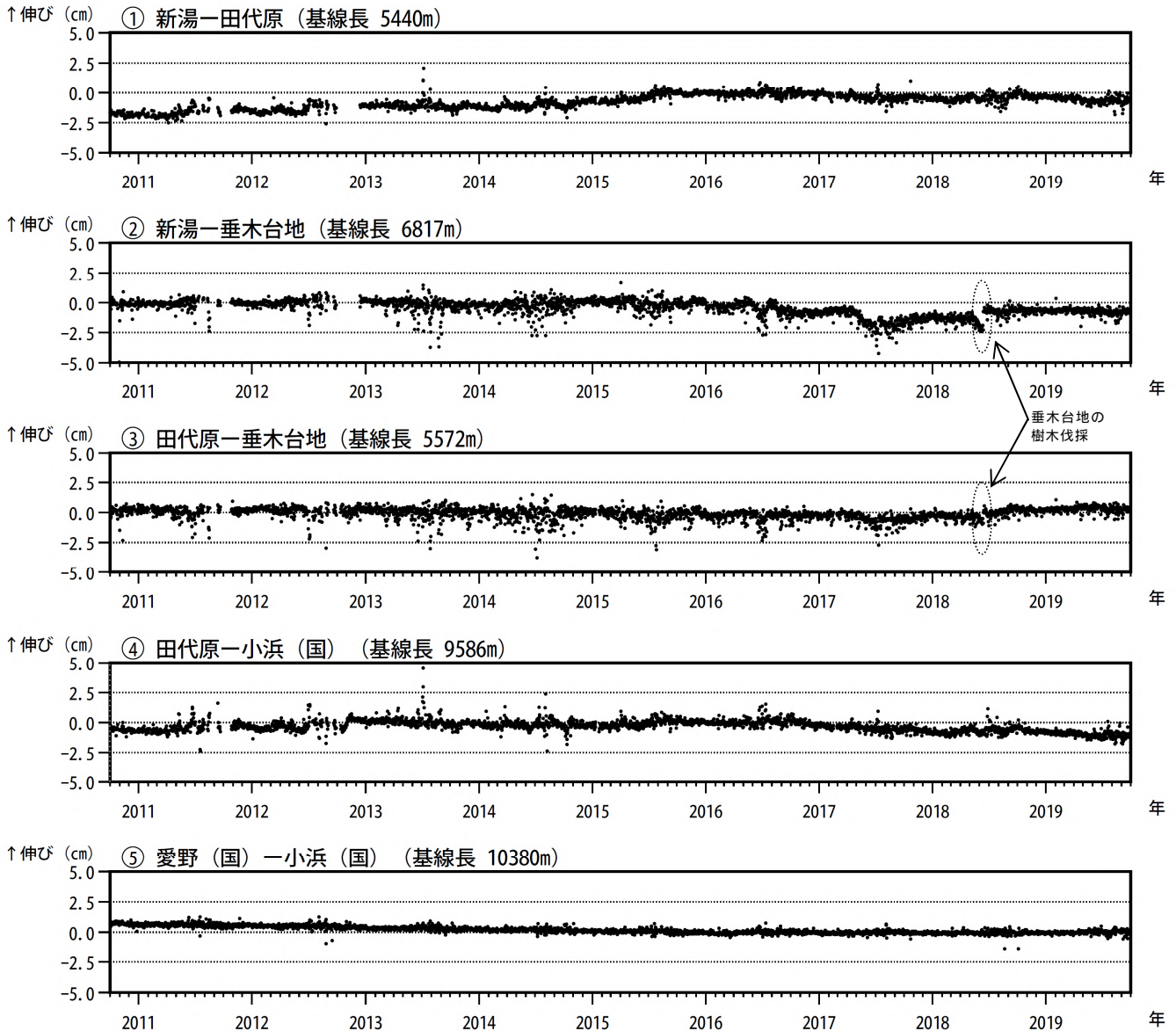


図4 雲仙岳 GNSS連続観測による基線長変化（2010年10月～2019年9月）

GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる特段の変化は認められませんでした。

これらの基線は図5の ~ に対応しています。

基線については、国土地理院の解析結果（F3解及びR3解）を使用しています。

基線の空白部分は欠測を示しています。

2016年1月以降のデータについては、解析方法を変更しています。

2016年4月16日以降の基線長は、平成28年（2016年）熊本地震の影響による変動が大きかったため、この地震に伴うステップを補正しています。

一部の基線で認められる変化については精査中です。

（国）：国土地理院

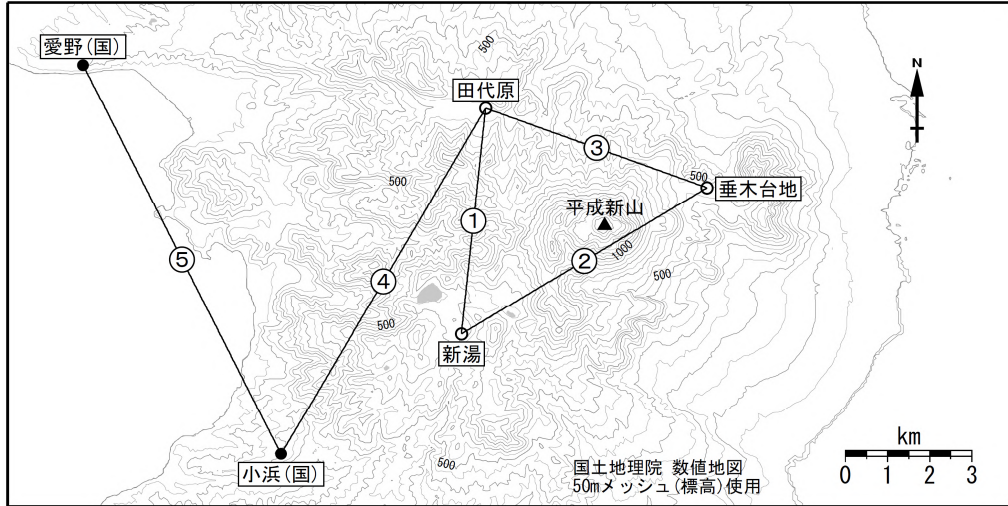


図5 雲仙岳 GNSS 連続観測点と基線番号

小さな白丸( )は気象庁、小さな黒丸( )は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
 (国): 国土地理院

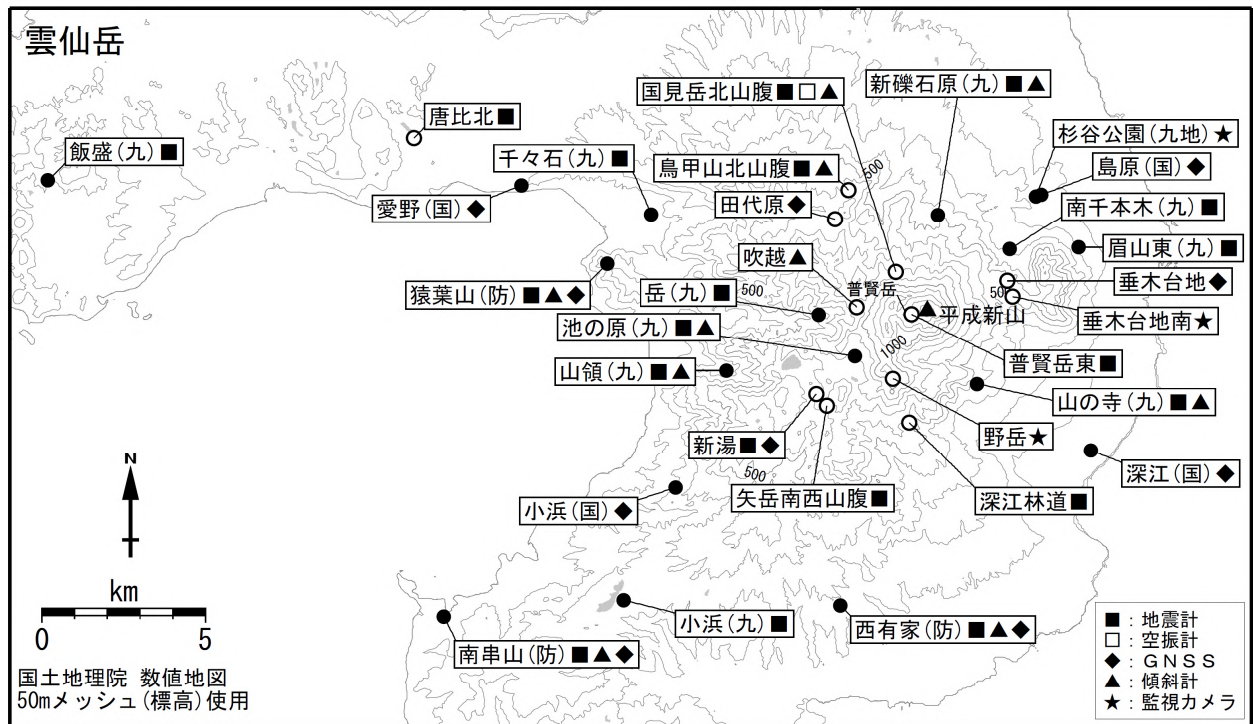


図6 雲仙岳 観測点配置図

小さな白丸( )は気象庁、小さな黒丸( )は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
 (国): 国土地理院、(九地): 九州地方整備局、(九): 九州大学、(防): 防災科学技術研究所